

1. 令和6年度わかさこども園教育目標

いきいきと かがやく わかさっこ
～心を動かす体験を通して、人とのつながりをひろげよう～

2. 本年度の定めた重点に取り組む目標や計画を基に設定した
園の具体的な評価目標や計画

＊重点目標

- ・遊びたくなる環境や保育の展開
- ・自らの気づきを学びにつなげる研修
- ・地域に開かれた園づくり

3. 自己評価項目の達成状況及び取り組み状況

A:十分に達成されている

B:達成されている

C:取り組まれているが、成果が十分でない

D:取り組みが不十分である

評価項目	結果	理 由
(1) 遊びや活動が充実する環境	B	・自ら遊び、繰り返し試しながら遊びを楽しむ姿が見られた。また、保育後の振り返りで子どもの育ちが明確になり、次の保育につながった。
(2) 資質向上の取り組み	B	・日頃から職員間で子どもの姿や保育を語ることで新たな考え方を知ることができた。 ・園内研修で話しやすい雰囲気作りが必要と感じる。内容によっては、少人数での研修を持つとよいと感じた。
(3) 幼小の円滑な連携	C	・交流を通して保育体験で子どもの育ちや園の思いの理解へつながった。 ・年長児担任が主で進めていたが、園全体で関わっていく必要がある。
(4) 地域交流	C	・地域の方とのふれあい交流で、人の温かさややさしさに触れることができた。 ・今後は、交流した方々とのつながりを継続していく内容の工夫が大切である。

4. 園関係者評価委員会による評価及び意見の概要

評価項目	結果	理 由
(1) 教育・保育内容全般について	B	・今年度の研究テーマに沿って、地域の方々と色々交流がされ、つながりが広がり良い取り組みができていると思う。 ・「遊びきる」「最後までねばり強くする」などを意識して、日々の活動をしているのは素晴らしいと思う。 ・一人ひとり個性があり集団として教育・保育していくのは、とても大変なことだが、目標に向かって様々な取り組みがなされていると感じる。
(2) 子どもについて	A	・「こども園に行くのを楽しみにしている」「こども園でのびのびと活動している」等の肯定的評価が高いことから、子ども達の元気でのびのびとした姿が想像できる。

		・「自分がしたい」「こんなことできたいいな」などとやる気を持って日々の活動に取り組んでいるのがみられたと思う。 ・運動会や発表会ででのびのびと子どもらしい姿を見ることができた。 ・子どもからいつも楽しかったと話しも聞くことができた。明日も早く園に行きたい、元気に楽しく過ごしていると思う。 ・地域イベントの参加も増えたが、元気ででのびのびとした園児の姿が見えた。
(3) 教職員について	B	・行事の際に、先生方と子どもとの関り方を見て、ほほえましく感じた。 ・運動会や発表会等、楽しく参加させていただいていますが、行事の準備の過程で子どもに寄り添い、指導するのは大変であろうと思う。 ・子ども達に対して、丁寧に向き合ってくださっていると感じる。子どもの安心感へつながっていると思う。 ・職員同士が語り合い、相談しあえる雰囲気づくりが資質向上につながると思う。
(4) 地域・保護者との連携について	B	・保護者アンケートの「子どもをこの園に通わせて良かった」項目では、AとBで100%であったことが何よりの評価だと思う。 ・保護者からの意見を聞きとる機会を設け、対話、検討を重ねている。 ・地域の行事にたくさん参加されていて、子ども、保護者の負担になっていないかを感じる。人の前に出ることが苦手な子もいるのでは。参加の工夫、行事の精選等をつけてほしい。 ・参加された地域の方々からも「楽しかった」ととても好評の声を聞きました。 ・保護者や地域が親しみやすいと感じているとは言い難いと思う。もっと園と保護者と歩み寄れるようになればいいと感じることがある。お互いが、お互いの話を聞こうとする姿勢を持つことが大切のように思う。 ・園児数も減り、保護者会も難しくなってくると思うが、園と保護者会が連携しながら事業を進めていってほしい。
(5) 安全管理について	B	・マチコミを活用しての感染情報等の周知は保護者にとって早く知ることができ有益だと思う。大雪時の道路、駐車場の状況などタイムリーな情報提供も検討してほしい。 ・保護者講演会、マチコミメール配信などが、保護者の感染症対策への理解につながっていると思う。 ・何かがあった時に、すぐに対応できる体制作りが大切と思う。 ・マチコミメールは、多いほど保護者はうれしいと思うが、きりがなく配信する側は大変と思う。回数などある程度、ラインを決めるなどして先生方の負担にならないようにしてほしい。

5. 自己評価結果と園関係者評価の結果を踏まえた、園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果の概要

結果	理 由
B	・子ども達の安心・安全を第一に考え、子ども一人一人に寄り添った丁寧に関わり元気に喜んで登園できるように努める。 ・心が動く様々な体験や経験活動を引き続き実施していく。 ・各年齢発達を押さえた保育の保障。(計画・実施・振り返り・改善) ・若桜学園との連携・接続を深める。(幼児期の学びをつなげる) ・地域に出かけ、交流を通して、人の温かさややさしさに触れ、若桜を好きになる子どもを育てていく。